

■北海道大、8度目の全日本挑戦も初戦突破ならず

全日本大学アメリカンフットボール選手権の1回戦が11日、行われ、岐阜市の長良川球技メドウで名城大（東海地区）と対戦した北海道大は6-33で敗れた。決勝が甲子園ボウルとなる同選手権は今年で14回目。2年連続8度目の出場の北海道大は、念願だった初戦突破を今年も逃した。

北海道大は第1Q1分、名城大に25ヤードTDパスで先制を許した。北海道リーグで鉄壁を誇ったDB陣が相手エースWRに振り切られた。北海道大は続く攻撃シリーズで自陣30ヤードから、RB榊琢也（4年、札幌東高）の連続ランで前進。敵陣1ヤードまで攻め込んだが、TDを狙ったパスが決まらず、絶好の反撃機を逃した。



第2Qは、北海道大DL石生晶也（1年、大阪・高槻高）のQBサックなど序盤は守備合戦になったが、8分に名城大に再びパスで追加点を奪われた。北海道大も11分、WR/K日高耀（4年、福岡・北筑高）が40ヤードのFGを狙ったが、惜しくも失敗。前半を0-13で折り返した。

第3Qも立ち上がりはDL浅井聡太（4年、東京・都立西高）のQBサックもあり、一進一退の攻防になったが、10分に3ヤードランで名城大にTDを許した。直後のキックオフでは捕球ミスで攻撃権を名城大に奪われると、第4Q3分に38ヤードのTDパスを決められた。その2分後にはQB神田智史（2年、東京・麻布高）のパスがインターセプト、ランTDに結びつけられた。

北海道大が意地を見せたのが第4Q10分、QB神田からWR宮崎大地（4年、兵庫星陵高）へ20ヤードのTDパスが決まり6点を返したが、反撃が遅すぎた。



北海道大の降梁祐介ヘッドコーチは「全国の強豪をイメージして練習してきたが、カバー仕切れずに名城大に許した先制TDなどレベルの違いを克服できなかった。敵陣1ヤードまで攻め込んだ場面もしょうもない反則でふいにした。自滅だった」と悔しがり、最後に意地を見せたものの得意のパス攻撃を封じられたWR宮崎も「相手守備選手2人にカバーされ、かいくぐれなかった。悔しいというより情けない」と残念がった。

力走を見せたRB榊は「立ち上がりは前が空き、走りやすかった。自分の足で同点にできていれば、試合展開も変わっていた。実力不足」と口元を引き締めた。QB神田も「榊さんのランが通ったので続けた。あそこでTDが取れていたら」と残念がった。

念願の勝利を逃して、主将のDL大島夕輝（4年、札幌国際情報高）は「守備はすべてのプレーがあと一歩だった。全国との差を超えられると思っていたのだが」と振り返り、故障でサイドラインから見守ったQB山本康介（3年、奈良・奈良学園登美ヶ丘高）は「早い段階で1本TDが取れていたら、さらに2、3本取れた試合だった。来年はTDを取り切るチームにしたい」と巻き返しを決意していた。

【記録】

北海道大	0	0	0	6 = 6
名城大	7	6	7	13 = 33